ム。下顎ノX線所見ニ於テハ 2 1 | 1 2 3 4 部ノ骨ノ變化ヲ認メ又組織標本ニ依ル病理解剖的検査ニ於テ結核ノ像ヲ示ス。臨牀的診斷：纖維性肺結核，粘膜及下顎齒槽突起ノ結核。結核感染ノ原因及擴大経路ハ Killian, Zilz, Banke, Jaruntowsky, Lukomsky, Libin 等ニヨリ詳細ニ研究サレ上記權威者ノ意見ニ依リ感染源トシテ次ノ場合ガアリ得ル。

1. 口腔直接ニ(對外的因子), 2. 血行性栓塞性感染(對內的因子), 3. 淋巴行, 4. 排泄管ノ系統ニヨル結核竈ノ擴大等ナリ。口腔結核ハ原發性疾患, 或ハ二次感染トシテ發生シ經過ス。原發性疾患ノ形態トシテ記載セル粘膜結核ノ例ハ異論無キモノトハ認メラレズ。此ノ問題ニ關シテハランケノ述ブル如ク唯解剖ノ結果ノミガ確實ナ解答ヲ與ヘル。如何ナル場合ニ於テモ口腔ノ原發性結核ハ非常ニ稀デ, 屢々我々ハ二次感染ノ型ニ遭遇スル。此處ニ引用セル症例モ亦之ニ屬ス。最モ多イ感染ノ源ハ肺臟ナリ。是等ノ場合感染ノ擴大ハ呼吸器系統ニヨリ行ハル。即チ氣管傳播ナリ。診斷ノ決定ニハ黴毒及惡性腫瘍ト口腔粘膜ノ炎症性疾患ト鑑別シナケレバナラナイ。此ノ目的ニハ結核ノ臨牀的所見ヲ考ヘ充分ナル顯微鏡検査ノ後粘膜結核ノ診斷ヲ確定スルヲ得ベシ。治療トシテハ先ヅ第一ニ生體ノ抵抗力ヲ高ムル爲佳良ナル生活狀態ヲ保タシムル事, 即チ空氣, 日光, 營養等ナリ。局所療法トシテハ50%ノ乳酸塗布, 「ヨード」加里内服, 更ニ放射線療法ヲ試ムベシ。(丹野啓行)

急性齒根膜炎ノ外科的處置

Die chirurgische Behandlung der acuten Wurzelhautentzündung

von Prof. Dr. Robert Neumann in Berlin.

Zahnärztliche Rundschau, Nr. 6, 1935.

急性炎症ヲ伴ヘル齒牙ヲ不注意ニ拔齒シテ重篤ナル口腔底化膿ヲ招來スル事ガ屢々アルガ, 特ニ下顎大白齒部ノ場合ニ多イ。即チカハル場合ニ拔齒ヲスルト軟組織部ニ炎症ガ擴大サレテ, 惡イ結果ヲ招クノデアル故大ナル注意ノ下ニ處置シテ行カナケレバナラヌ。然シ根管カラ藥液ヲ入レ, 「ソラックスランプ」, ハラ氏長波線, レントゲン, 乾濕布, 「デッテルミー」等ノ姑息的處置ヲ施シテモ快方ニ向ハズ惡化シテ骨膜下膿瘍, 粘膜下膿瘍ヲ形成シテ搏動的ノ疼痛ヲ訴ヘル様ニナル。カハル場合ニ早期ニ切開ヲシテヤルト目的ヲ達スル事ガ出來ルノデアルガ, 著者ハ早期ニ, 即チ骨ヲ破リ骨膜下ニ達シナイ時ニ齒根管先端ヲ「パー」デ大キク擴大シテヤルト, 自然根管カラノ排膿ガ良クナリ治癒ニ向フノデアル。ソレデモ不充分ナ時ニハ, 骨ヲ通シテ病竈ニ直接ニ達スル様ニ齒齦部カラ穴ヲ作ツテヤルノデアル。即チ Alveotomie (齒槽切除)ヲ行フノガ一番良イ方法デアルト云フテ居ル。特ニ其ノ齒牙ガ架橋義齒ノ支臺, 又ハリッチモンド氏齒冠, 繼續齒ノ根, 又ハ根管充填ガ非常ニ強クシテアル場合ニハ此ノ方法ガ最モ良イノデアル。急性症狀ヲ慢性症狀ニナルマテ置クノハ色々ノ併發症ヲ起シ易イノデアルカラ, ソノ意味ニ於イテモ Alveotomie (齒槽切除)ノ適應症デアツタラ直チニ之ヲ行フノガ大切デアル。此ノ方法ハ拔齒操作ヨリモ感染部ニ及ボス機械的刺戟モ小デアリ, 豫後モ大層良イノデアル。昔ハ當然拔齒スベ

キ適應症デアツテモ全テ排膿症狀ヲ呈シナイト拔牙ヲ見合セテ居タガ、現在デハ Alveotomie(齒槽切除)ヲスレバ炎症ノ原因ヲ取り去ル事が出來ル故ニ炎症ノ擴大スル心配モ、骨壞疽ノ形成モ、不快ナル併發症モ事前ニ防グ事が出來ルノデアアル。此ノ事ニ關スルアックスハウセンノ見解ハ次ノ通りデアアル。急性化膿性感染部内ニアル齒牙ノ拔去ハ中止シタ方が良イ。敢テ拔去ヲ行フト豫後不良ニシテ患者ニ大ナル不安ト損害ヲカケル事ニナルカラ臨牀家ハ注意セネバナラス。又ワスムンド氏ハ、齒牙ガ非常ニ動搖シテ居ル時ニハ拔去シテモカマワスト云フアックスハウセン氏ノ見解ニハ反對シテ居ル。齒髓死ヲ來タセル齒牙ノ動搖トカ、堅固トカ云フモノハ何等拔牙スル標準ニハナラナイモノデアツテ、拔牙適應症トハ臨牀所見ニ依ツテノミ決定サレルモノデアアル。骨内部ヨリ急速ニ排膿サセナケレバナラナイ様ナ時ニハ拔牙ハ必要缺クベカラザルモノニシテ、ソノ齒牙ノ拔去ニ依リ目的ヲ達スル事が出來ルノデアアルト云フテ居ル。(神澤康夫)

補 綴 科

總義齒牀ノ機能運動ノ立體的記錄方法

Method of recording functional movements of full-denture bases in three dimensions. Carl O. Boucher, D. D. S. College of Dentistry,

Ohio State University, Columbus, Ohio.

The Journal of Dental Research February, 1934.

咬合器ヲ大別スルト非調節性咬合器ト調節性咬合器ニ分チ得ル。調節性咬合器ニ對シテハ口腔内又ハ口腔外ヲ描寫ガ行ハレル。主ナル口腔内咬合採得ノ方法トシテハ、(1)蜜蠟記錄(下顎前突時及ビ側方咬合時ニ介入セル蠟ニ記錄)(2)金屬ノ咬合計器(前方突出ニ於テ插入)(3)石膏咬合採得(Stansbery)、(4)「グラフ」式描寫(Luce)、「カーホランダム」ノ咬合板方法(Patterson)、(6)對合咬合邊緣中ニ插入セル「ピン」ニヨリ描寫スル Gysi 氏ノ gothic arch ノ體寫(Needles)、主ナル口腔外ノ方法ハ(1)顔面測斜器 facial clinometer ニヨル「グラフ」式ノモノ(Walker)(2)口腔外石膏咬合採得(Sears)等デアアル。描寫方法ニ於テハ顎運動ト機能時ト總義齒牀ノ關係ノ正確ナル機能描寫ヲ得ルコトハ困難ナモノデアアル。吾々ハ義齒ハ正シキ齒牙接觸ガ齒牙解剖ノ限界内デ何等カノ關係ガアル場合ニ機能ヲ有スルモノデアアルト思フ、描寫ニヨツテハ唯位置ノ靜止ノ關係即チ全機能ノ關係ノ一小部分ガ記錄サレルノミデアアル、機能時ニ於ケル義齒牀ノアラユル關係ヲ表ハス正確ナ描寫ヲ得ルニハ咬合採得ノ方法デハ齒牙ガ接觸シテキル時ニ其ノ正確ナ中心關係ヲ記入セネバナラナイ、即チ種々ノ下顎運動ノ間ニ義齒牀ノ總テノ徑路ヲ正確ニ記入スルコトヲ要スル、若シ平衡咬合ガ咬合器上ニ完全ニアラハサレテキルナラバ義齒牀ノ關係ノ如何ナル變化モ容易ニ記入サレルニ違ヒナイ。以下ハ是等ノ描寫ヲ得ル器械及ビ其ノ描寫ヲ複寫スル咬合器ニツイテ陳述スル、而シテ之ニヨツテ機能時ノ義齒牀ノ正確ナル關係ヲ得ラレル。

(A) 記錄裝置 之ハ2個ノ三角形ノ金屬板ヨリナリ上下ノ咬合板ニ取り附ケ得ラレル、上金屬板ニハ(1)3個ノ皿(cup)ガアツテ各隅角部ニ1個宛取附ケテアル、(2)中心ノ位置ニ1個ノ